

**夷王山まつり開催！
♪エゾヤマツツシの味く頃に♪**



6月22日、晴れ渡る青空の下、毎年恒例の夷王山まつりが開催されました。
会場では、地元飲食店等の屋台から美味しそうな香りが漂い、恒例のばん馬競争では、全37頭がしのぎを削る熱いレースが繰り広げられたほか、町内外ののど自慢が歌声を披露するカラオケ大会も大盛況となっていました。
また、鳥羽一郎さんの歌謡ショーでは、例年にないほど多くの方が詰めかけ、それに応えるような鳥羽さんの歌とトークに会場が沸き、来場者の方々は大変な盛り上がりを見せていました。

**増えるニシン！
今年10万尾放流！**

5月22日、ひやま地域ニシン復興対策協議会（工藤昇会長）が主催するニシンの稚魚放流式が上ノ国漁港にて行われ、約10万尾を地元の漁業者や上ノ国保育所園児などが放流しました。
現在、前浜で漁獲されるニシンは、採卵や調査目的で年間30kg程度に留まっていますが、本町を含めた道内各市町村での放流の成果もあり、確実に数は増えつつあるようです。
協議会では、今後は100万尾の放流を行いたいとの話もあり、参加者全員がニシンの戻る日を夢見ている様子でした。



**同郷の交流
ふるさと会で思い出を懐かしむ**



6月13日、札幌近郊に在住の本町出身者で構成される札幌上ノ国ふるさと会（福島久平会長）の総会・懇親会が札幌にて開催され、約70名が参加しました。
本町からは14名が参加して交流したほか、特産品の物産販売では、ふるさとの懐かしい味を多くの方が買い求め、ほぼ完売する売れ行きでした。
中でも参加者の方が子どもの頃によく食べたという「かたこもち」は、ふるさとの味そのものだから、販売開始からすぐに売り切れるという状態で、それぞれ思い入れのある味を楽しんでいる様子でした。

**収穫期を迎えたトマト
株寅福がハウス栽培**

6月1日、中須田地区に建設されたトマト栽培ハウスを運営する株寅福が初出荷を行いました。
このハウスのトマトは、水や養分を機械的に管理する養液栽培システムによって生育されており、1畝当たりの収量増加が見込まれています。
現場責任者の加藤さんは、「利益を上げることが勿論、雇用の場を設けることで、地域の発展にも貢献したい。」と意欲的に話していました。
トマトは、6月後半で1日約2トほどの出荷が行われており、夏にかけて、収量増が見込まれることから、さらに作業員を増員する予定とのことです。

